

読む・知る・つながる大体大マガジン

OUIHS

Vol.236 2025.10.10

JOURNAL

OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES

〈旬な大体大生〉
BFA アジアカップ
侍ジャパン女子代表
柏崎 咲和さん

KASHIZAKI SAWA

〈巻頭特集〉

開学 60 周年、
多彩な記念行事を実施

大体大



旬な大体大生

BFA アジアカップ侍ジャパン女子代表

かしざき さわ
柏崎 咲和 さん

体育学部4年・硬式野球部女子

横浜市出身。3歳から野球を始め、福井工業大学附属福井中学・高校でプレー。オール大学生となったアジアカップ日本代表では、投手陣で唯一の4年生。2023年アジアカップは最終選考で選から漏れた。

女子野球の第4回BFAアジアカップ（10月26日～11月2日、中国・杭州）の日本代表・侍ジャパン女子のエースとして期待される。チームは若手の強化も視野にオール大学生で編成され、大体大から最多の5名が選出された。昨年のWBSC女子野球ワールドカップで7連覇を達成した中島梨紗（監督、横井光治氏（大阪体育大学監督）らコーチ3人のもとで4連覇を目指す。



横井光治監督、捕手の山本一花（左から2人目）、5番の木村睦実選手と

interview

〈柏崎選手に聞く〉

アジアカップでは4連覇がかかる。抱負を

今回は大学生の代表ですが、3連覇を築いてきた先輩たちの歴史や伝統を引き継ぎ、4連覇を達成したい。

代表には、大阪体育大学から最多の5人が選出された

光栄に思います。また、5人中4年生が4人いるので、最上級生としてチームを引っ張りたい。体大の選ばれていない選手たちの分も誇りを持ち、胸を張ってプレーしたい。

昨年のW杯では1学年先輩の白石美優（現阪神タイガースWomen）がMVPと首位打者を獲得した。意識するか

昨年、美優さんがMVPを獲得したと知った時は、「あのトップクラスのメンバーの中で！」と衝撃でした。自分たちの可能性、大学生でも結果を出せることを見せてくれました。自分たちもMVPやタイトルを取れる選手になるよう頑張ろうと思いました。

侍ジャパンに選ばれた感想は

前回は候補までは選んでいたのですが、あの夕テジマのジャパンのユニホームを着ることができなかった。やっと、そのユニホームに袖を通せることうれしさを強く感じると同時に、責任、自覚を持ってプレーしたいといけなくと改めて思いました。

8月の全日本インカレは、決勝は初めて明治神宮野球場での開催。しかし、3日連投となった準決勝で力尽きた。

自分たちが出ない神宮での決勝を考えると悔しかった。今でも振り返ると、「本当に神宮出たかったんだな、自分」と思い知らされます。

女子野球のいつその発展に向けて、侍のユニホームを着る者の責任は重い。

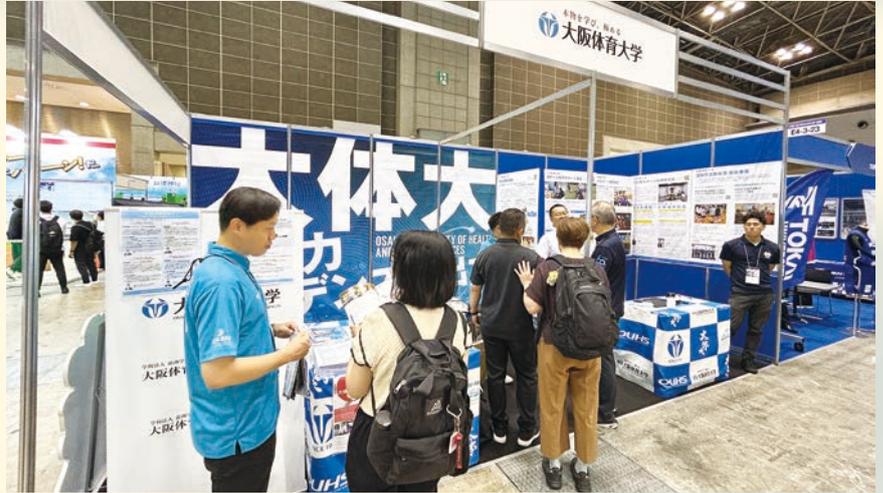
女子野球の発展のためには、将来、野球を続ける女の子が増えることが大切ですが、そのためには自分たちが結果を残し続けなければなりません。自分自身も次のW杯でメンバーに入れるよう全力を尽くして、結果を残したい。

東京ビッグサイトに4.2万人 SPORTECに出展

4年連続・スポーツSDGsセミナーも

日本最大の国際スポーツ・健康産業専門展「SPORTEC（スポルテック）2025」が7月30日～8月1日、東京都江東区の東京ビッグサイトで開催され、大阪体育大学は4年連続でブースを出展した。

スポルテックは世界中のスポーツ関係企業や自治体、スポーツコミッション、団体など約450団体が、最新製品・技術・サービス・研究成果を発表するもので、原田宗彦名誉教授（日本スポーツツーリズム推進機構代表理事）が実行委員長を務める。3日間で約4万2000人が来場した。大学の出展も多く、今年度は、筑波大学、早稲田大学など15大学（学部、研究室



ブースで本学の研究、諸活動を紹介した

開会式典で実行委員長としてあいさつする原田宗彦名誉教授



など社会貢献活動に取り組み株式会社CRAFTA取締役の安部未知子さんとスポーツ科学部・藤本淳也教授（スポーツマーケティング）が講演。大学スポーツが持続可能な社会に向けてどう貢献することができるのかを探った。



主催セミナーで対談する藤本淳也教授と安部未知子さん

熱心に教員やスタッフに質問していた。

また、会場で主催セミナー「大学スポーツで創る持続可能な社会…共創と還元による教育・研究・ビジネス連携モデル」を開催した。大体大はスポーツSDGsに、特設サイトの開設などを通じて積極的に取り組んでいる。Jリーグなどで社会貢献活動に取り組み株式会社CRAFTA

を（含む）がブースを出展したほか、共同出展も目立った。

大体大は「大体大 連携力 エビデンス創出力」をコンセプトに、大学の事業・研究・諸活動を紹介し、新たな産学連携事業の創出を目指した。

ブースでのポスター掲出で、「運動部活動改革プロジェクト」「大学スポーツ振興事業」「スポーツ科学サポート事業」「社会連携事業」「大学院スポーツ科学研究科」を紹介した。ブースにはビジネスパーソン、研究者らが次々に詰めかけ、研究活動やプロジェクトについて

contents

01 旬な大体大生

02 SPORTECに4年連続出展

03 巻頭特集

開学60周年、多彩な記念行事を実施

05 NEWS

- 1 オープンキャンパス前年比増
- 2 FDSDシンポジウム
- 3 第3回能登半島復興支援

4 第1回国際研究セミナー

- 5 大分県が本学講座を採用
- 6 松田教授にJOC女性スポーツ賞
- 7 産学連携プロジェクトで表彰
- 8 原田前学長に名誉教授称号

09 大体大PEOPLE

佐々胡桃:阪神甲子園球場アナウンス担当

11 EVENT

- 1 海で山で野外活動実習
- 2 就活支援キャリアフェスタ
- 3 和歌山県と連携協定
- 4 9月度修了式・卒業式
- 5 教育後援会役員会

13 コラム 窓

14 コラム ポーシャ

多彩な記念行事を実施



開学記念日の6月23日に「還暦誕生日パーティー」を開催するなど多彩な記念行事が実施された。

還暦誕生日パーティー開催／学生主体 2代目ボーシャー登場

開学記念日の6月23日、開学60周年を記念した学生主体の「還暦誕生日パーティー」が開催された。

6月23日は1894年に国際オリンピック委員会（IOC）が創設された日。「オリンピックデー」として、スポーツを通じた平和でより良い世界の建設や健康、友情、フェアプレーの大切さを改めて認識する日となっている。

初代副学長で1964年東京五輪では選手強化対策本部長を務めた大島鎌吉氏が、1982年にIOCから日本人として唯一の「オリンピック平和賞」を授与されるなど、本学にはオリンピックの理念を尊重する気運があり、オリンピックデーが開学記念日となったようだ。

「還暦誕生日パーティー」は23日のお昼休みを利用して、中央棟前広場で開催された。

神崎浩学長は1964年東京オリンピックの役員ジャケット姿で登場。「1894年、明治27年にパリで国際オリンピック委員会が設立された6月23日はその後、オリンピックデーとなり、その6月23日が本学の開学記念日になっています。大阪体育大学は1964年の東京オリンピックを機に日本でスポーツへの関心が非常に高まる中で、浪商学園がつくった大学です。60歳の還暦は再スタートの意味もあり、今日を機に、学生の皆さんと教職員が再度、一丸となって、より素晴らしい大学を創り上げるように頑張っていきたいと思います」とあいさつした。その後、バスデーソングの合唱や、大阪体育大学のマスコット「BOUHSER（ボーシャー）」の2代目のお披露目などが行われた。

<写真で振り返る還暦誕生日パーティー>



1 パーティーはフラッシュモブでスタート。ダンスの授業を受講している学生が突然踊り出す



2 ダンス部員もパフォーマンス



3 最近太り気味のボーシャーのダンスにMCの学生がダメ出し。S&Cルームで身体を鍛えることに



4 神崎浩学長が1964年東京五輪の役員ジャケット姿で登場し、あいさつ



5 学生手作りのくず玉を神崎学長が割ると、「還暦おめでとう」の垂れ幕



6 学生の力作のケーキが登場



7 最後に全員で記念撮影。還暦にちなんだ赤と大学のイメージカラーのライトブルーで「60」



7 突然、体を鍛えてスタイリッシュになった2代目ボーシャーが現れた



パーティーMOVIE

開学60周年

大阪体育大学が2025年、開学60周年を迎えた。
記念ロゴの制定や記念サイトの開設のほか、

1965年、西日本初の体育大学として創設 / 1989年、関空望む熊取キャンパスに移転



50周年記念式典



加藤橋夫・初代体育学部長



竣工当時の熊取キャンパス



茨木学舎



大島鎌吉・初代副学長

大阪体育大学は、前年の東京オリンピックの熱気が残る1965年、西日本初の体育大学として大阪府茨木市に開学した。
東京五輪選手強化対策本部長の大島鎌吉氏を初代副学長、日本体育学会創立メンバーの加藤橋夫氏を初代体育学部長に迎え、日本を代表するスポーツの総合大学として、スポーツ界、教育、公務員、企業など幅広い社会の領域に有為な人材を輩出してきた。1989年には関西国際空港を眼下に望む大阪府泉南郡熊取町にキャンパスを移転。開学50周年を迎えた2015年に教育学部を開設、2024年には開学以来の伝統を誇った体育学部を改組しスポーツ科学部が誕生するなど改革の歩みを継続している。

記念サイト開設



記念サイト



記念サイトQR

開学60周年を記念した特設サイトが開設された。
特設サイトは「最新情報」「学長あいさつ」「大阪体育大学の歴史」の3つで構成されている。
「最新情報」では、開学60周年に関連したニュースを随時、掲載。「学長あいさつ」では、神崎浩学長が「大阪体育大学が開学60年の節目を迎える今年、私は第10代学長を拝命しました。少子化など大学を取り巻く環境は厳しさを増す一方ですが、社会や学生、卒業生、教職員などステークホルダーの皆様の期待に、全身全霊で応えていく所存です」などと決意を語っている。
また、「大阪体育大学の歴史」コーナーでは、「1965年、大阪・茨木の地に西日本初の体育大学が誕生」「本学の礎を築いた大島、加藤氏」「1989年、熊取キャンパスに移転、北摂から泉州へ」「1992年、関西の体育系大学で初の大学院開設」「2015年、教育学部開設、開学50周年式典を実施」「2024年、スポーツ科学部開設」の6項目を柱に、60年間の歴史を掲載。「大阪体育大学は、当初は大阪産業大学の名称で開学する計画だった」などの逸話も紹介している。

また、中央棟前広場のスカイプロムナードに開学60周年横断幕が登場。60歳の還暦を祝って、「赤いちゃんちゃんこ」をイメージした赤のポスターもキャンパスの各所に貼られ、お祝いムードを盛り上げた。



ポスター



横断幕

伝統と革新イメージした記念ロゴ

開学60周年記念のロゴマークを制作した。「60」を大きくすることで大学の歴史と成長を強調。「6」と「0」が重なり合うことで、過去と未来のつながり、伝統と革新の両立をイメージしている。青のグラデーションは過去から未来へと続く進化の流れを表現した。



座談会



座談会QR

開学60周年を記念した教職員座談会も実施され、模様がYouTubeで紹介された。
大阪体育大学と同じ60歳で還暦の職員6人が登場。同じく還暦の藤本淳也教授が司会を務め、この場でしか話せない「大体大トーク」を繰り広げた。昭和ならではの話から、学生に向けた熱い思いまで、見どころ満載の内容となった。
撮影や動画編集は学生が担当した。

大体大と同じ「還暦」教職員 ／記念座談会MOVIE

オープンキャンパス前年比増 学生の笑顔と親密さが好評



ボーキャンズのメンバー

夏のオープンキャンパスが7、8月の週末を中心に4回開催され、前年から大幅増となった昨年をさらに上回る多くの方が来場した。

オープンキャンパスは、説明会や体験授業、キャンパスツアー、デジタルスポーツ体験会、バイオメカニクス測定体験会、体力テスト対策体験会、テーピング実技体験会、個別相談会など盛りだくさん。大体大と連携協定を結ぶソフトバンクのほか、富士通の展示ブースも注目を集めたほか、各企業の協力でアイスクリームやドリンクが配布された。

参加した高校生に感想を尋ねると、「大学生からいっぱい話しかけてもらい、みんなフレンドリーでとても良かった」（京都府私立高校3年生女子）、「すれ違った時に学生の方がめっちゃあいさつしてくれて、明るい雰囲気を感じた」（和歌山県立高校3年女子）など学生のフレンドリーさを挙げる声が多かった。

オーキャンは、学生チーム「BowCan's」（ボーキャンズ）が運営の中心を担う。チームとして笑顔や礼儀、言葉遣いの大切さを

意識して臨んだといい、学生の笑顔と親しみやすさが高校生の心に強く響いたようだった。



キャンパスツアーで笑顔で参加者に語りかける学生スタッフ



デジタルスポーツ体験会でZwiftに挑戦する高校生



オープンキャンパス

開学60周年記念事業

FD・SD公開シンポ



FD・SD公開シンポ

大阪体育大学開学60周年記念事業FD・SD公開シンポジウムが9月1日、対面とオンラインのハイフレックス形式で開催され、各大学の関係者や大体大の教職員ら約200人が参加した。

テーマは「大学は生き残れるのか?」。神崎浩学長が「少子化時代における『スポーツの総合大学』の挑戦と展望」、共愛学園前橋国際大学の大森昭生学長が「地方規模は強みになる〜Community Based Universityをめざす教学マネジメントとポスト『知の総和答申』の地域連携」、倉敷芸術科学大学の秦敬治学長が「次世代型『中小』大学の目指す道〜Next Universityへ向けて」と題して講演。学びと成長しくみデザイン研究所の桑木康宏代表がコメンテーターを務め、総合討論も行われた。

第3回能登半島復興支援

学生ら20名が池の泥を搬出

社会貢献センターは8月28～31日、能登半島地震被災地の復興支援活動のため、学生16名、教職員4名を石川県輪島市に派遣した。能登半島への派遣は3回目。本学は東日本大震災の被災地でも復興支援「サンライズキャンプ」を毎年実施している。

能登半島は、昨年1月の地震に続き、9月にも豪雨で大きな被害を出し、今年8月にも大雨に見舞われた。

学生らは羽咋市の国立能登青少



輪島市災害たすけあいセンターで

年交流の家を拠点に活動。29日は解体前の個人宅での家財道具の搬出、側溝の土砂のかき出し、民家の床上にたまった泥のかき出しなどにあたった。学生は傾いたままの電信柱、倒壊したままの木造家屋など地震や大雨の爪あとを目の当たりにして衝撃を受けていた。

30、31日は輪島市内の浄明寺で、裏山が崩れて土砂に埋まった池に入って泥をかき出しにあたり、8割ほどの泥を搬出した。活動を通して、学生はいまだに復興が進まない現状を肌で知り、「(ここ)では、日常ではありえないことが日常になっている」「ボランティアが少なく、被災地の現状に、もっと関心を持つべきだと思った」などと振り返った。



泥に足を取られる中での作業となった



最終日も無事作業を終え、笑顔



土砂で埋まった池の泥をスコップで搬出する

骨格筋の膜興奮性と運動に関する研究の世界的権威、ニュージーランド・オークランド工科大学のサイモン・ケアンズ博士が大阪体育大学の招きで来日し、7月28日、大体大で開催された第1回国際研究セミナーで講演した。

来日は、運動生理生化学研究室の渡邊大輝助手の論文がきっかけ。同研究室は運動生理学に関して全国トップクラスの研究環境を備え、国立研究

開発法人国立循環器病研究センター、ヨーク大学(カナダ)などで研究していた渡邊氏が2023年4月、大体大大学院スポーツ科学研究科に赴任した。渡邊氏は筋肉疲労の研究が専門で、今年1月ごろ渡邊氏の論文を読んだケアンズ博士からコンタクトがあり、情報交換を続ける中で大体大での講演が決まったという。

講演の演題は「骨格筋におけるカリウムイオンとグリコーゲンの相互作用・興奮性の役割」。各大学の研究者や大学院生らが対面とオンラインで参加した。

世界的権威が講演

第1回国際研究セミナー



サイモン・ケアンズ博士(中)、浜田拓副学長(左)、渡邊大輝助手

大分県が本学講座を採用 運動部活動指導認定プログラムに250人

大分県が地域スポーツ指導者養成のため、大阪体育大学の「運動部活動指導認定プログラム」を採用することを決めた。県は2025年度末までに休日の中学校の運動部活動を地域のスポーツクラブなどに移行する方針。地域スポーツ指導者養成事業を始め、3年間で県内在住の学生250人に本学のプログラムを受講させる予定だ。

「運動部活動指導認定プログラム」は運動部活動の指導者を養成するオンラインデマンド中心のリカレント講座。2023年から春秋の年2回、開講。必修60時間を受講し、修了者は日本スポーツ協会（JSP）公認スポーツコーチングリーダー資格を取得できる。

大分県は県内在住または県内の大学に通う大学生（原則1、2年生）を対象に50名を募集する。受講科目は大体大のプログラムの必修60時間のうち、集合講習10時間を大分南部公民館で、オンデマンド講習10時間を自宅などで受講する。修了者は県教委が「地域スポーツ指導者」として認定し、資格取得後は大分県人材バンクに登録してもらう。

大分県が指導者養成にあたって最も重視した点は指導者の倫理面

での質の担保。県教育庁体育保健課・吉野賢一郎課長は「質の高い指導者を育成することにこだわりを持って進めたい。大体大のプログラムは非常に魅力があり、受講できれば、質の担保は可能だ」と話している。



運動部活動指導認定プログラム最終演習の様



運動部活動指導認定プログラム最終演習

JOCが松田教授を表彰 女性スポーツ賞・柔道の男女平等に貢献



表彰式で三屋裕子JOC副会長からトロフィーを受け取る松田基子教授 ©アフロスポーツ/JOC



各賞を受賞した皆さん ©アフロスポーツ/JOC

日本オリンピック委員会（JOC）が制定する令和6年度JOCスポーツ賞の「女性スポーツ賞」を、スポーツ科学部の松田基子教授が受賞した。

女性スポーツ賞は、スポーツにおける女性の地位向上や、女性のスポーツ参加促進等に顕著な貢献が認められた個人または団体に授与される。過去には公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ、一般社団法人全国ママさんバレーボール連盟などが受賞した権威ある賞だ。

松田教授は大体大柔道部女子監督を務め、全日本柔道連盟、全日本学生柔道連盟理事。2017年から2023年まで全柔連女子柔道振興委員会の初代委員長で、現在は

特別委員を務める。選手も運営も審判員も女性を中心の「全日本学生柔道 YAWARA Challenge Tournament」の創設、都道府県連盟（協会）に向けた女性役員登用の促進などを通じて、女子柔道のキャリア形成支援と男女平等の実現に大きく貢献したことが評価された。

松田教授は「我々が行って来た、柔道界における女性活躍推進を目的とした様々な取り組みが、この様な形で評価いただけたことを、大変嬉しく思います。この賞は、一緒に取り組んできた方々とともに頂戴したと思っています。関わって下さった多くの方々に感謝致します」と話している。

産学連携プロジェクト ソフトバンク社から表彰 ICT活用の部活動指導



プレゼンでスピーチする学生

ソフトバンク株式会社の「産学連携プロジェクトAWARD2024」が7月11日、東京都港区の同社本社で行われ、大阪体育大学が次世代育成部門で表彰された。産学連携プロジェクトは、同社が全国の大学などと連携し地域の社会課題を解決する社会貢献プロジェクト。本学は同社と「スポーツ指導におけるICT活用」の連携協定を結び、ICTを活用した部活動などの指導に取り組んでいる。

AWARDでは各部門で表彰された6大学がプレゼンテーションを行った。本学は中学校などで体育授業や運動部活動の指導に取り組み仲泰陽さん（体育学部4年、兵庫県立西宮高校）、栗原その子さん（同、和歌山北高校）、折野歩葉（あゆな）さん（同、



ソフトバンク株式会社「産学連携プロジェクトAWARD2024」で次世代育成部門表彰を受けた大阪体育大学

兵庫・神戸龍谷高校）が「学生によるICTを活用した体育実技・運動部活動の指導モデル開発」をテーマに担当した。動画で、大阪府立すながわ高等学校の保健体育の授業での活動を紹介し、仲さんが「言葉で説明しても生徒が理解できないことも多かったが、タブレットを使うと子どもたちの表情が笑顔になった。教えられる側だった生徒たちがICTを活用したことで学びの主人公に変わった」と指導を振り返った。

大阪体育大学名誉教授称号授与式が7月14日行われ、原田宗彦前学長に名誉教授称号証書が授与された。原田名誉教授は、2021年4月から今年3月末まで学長を務め、現在は浪商学園理事、大阪体育大学学事顧問を務めている。式では、神崎浩学長が証書を授与した後、「原田先生は自ら学長トップセールスとして驚くほどの数の高校に直接足を運び、志願者増につなげられた。これからも学園・大学の発展に向けてご助言いただきたい」とあいさつした。原田名誉教授は「体大には大きな可能性があることをひしひしと感じている。今後は理事、学事顧問として様々なアドバイスをしていきたい」と語った。

原田前学長に 名誉教授称号授与



名誉教授称号を授与された原田宗彦前学長（前列中央）

夏の甲子園「県岐阜商VS横浜」の名勝負を担当

「平常心心がけたが、涙が出そうに」



阪神甲子園球場 アナウンス担当

佐々胡桃さん

佐々胡桃 (ささ・くるみ)
静岡県浜松市・西遠女子学園高校出身。2020年度、体育学部健康・スポーツマネジメント学科卒業。硬式野球部男子でマネージャー。2021年、阪神電鉄に阪神甲子園球場の放送担当として入社し、5年目。



阪神甲子園球場でアナウンスを務める佐々胡桃(くるみ)さんは、入社5年目の今年の夏の甲子園で延長11回8・7の激闘となった準々決勝、県岐阜商対横浜戦を担当した。球史に残る2時間42分の熱戦を「アナウンスは冷静でなければならぬのですが、入社5年目で初めて、試合後に涙が出そうになりました」と振り返る。

◆ガラス越しのエースの笑顔に鳥肌

延長十回表。横浜はタイブレークの無死一、二塁から、エラーと阿部葉太選手(3年)のタイムリーで3点を勝ち越した。その時、佐々さんは放送室のガラス越しにマウンドのエース柴田蒼亮投手(2年)の笑顔が見えた。鳥肌が立ったという。「あの場面でエースとして、みんなを奮い立たせるように笑っていました。笑顔でチームを鼓舞できる精神力のすごさというか、本当に17歳なのかと思いました」

試合は一回表、生まれつき左手の指がないが実力でライトのレギュラーの座をつかんだ横山温大選手(3年)がファインプレーを演じるなど、息詰まる熱戦となった。

場内アナウンスは冷静に務めることが重要とされる。佐々さんは他の試合と同様に、入れ込みすぎないように淡々とアナウンスした。

しかし、あのエースの笑顔を見て、気持ちが高ぶったという。「タイブレークに

入り、球場全体も緊迫したムードの中、選手たちのプレー姿に感動してしまっただ」。以後は、「考えないように、(選手の表情を)見ないように」と思いながらアナウンスした。

試合は十回裏、県岐阜商が3点を挙げて追いつくが、横浜は九回に続く内野5人シフトを敢行して追加点を阻む。十一回表は0点。その裏、県岐阜商が4番・坂口路歩選手(3年)のタイムリーでサヨナラ勝ちした。

佐々さんはゲームセットの時、手が震えていた。校歌斉唱で「〇〇高校の榮譽をたたえ、同校の校歌を演奏して…」とアナウンスする際には、いつも「榮譽をたたえ」の言葉に気持ちを込めてアナウンスすることを心がけているが、この試合では、試合の緊張感が解けないままだったという。

◆「スポーツを支える側に」とマネージャーに

佐々さんは静岡県浜松市出身。アスレ

ティックトレナー（AT）を目指し、ATの受験資格を得られる大阪体育大学に入学した。高校時代はバレーボール部だったが、大学ではスポーツを支える側に回りたいと思っていた。野球観戦が好きだったこともあり、入学前、野球部のツイッター（現X）に「マネージャーになりたい」とDMを送り、当時は女子として唯一のマネージャーになった。会計のほか、アイシングの水、プロテイン作りからおにぎり作りまで任された。

◆1年秋からアナウンス

阪神大学野球リーグの場内アナウンスは、所属チームの女子マネージャーが当番制で担当する。佐々さんは1年秋から務めた。最初は詳しい野球のルールが分からず戸惑ったが、次第に慣れたという。大学2年の2019年春、大体大の優勝決定試合のアナウンスを偶然担当した。この試合で、緊張感の中アナウンスをやり通せたことで自信を持てたという。

3年生のころから、将来の進路として野球場でのアナウンス業務を考えた。ただ、どの球場も定期的な採用はなく、企業への就活も始めていた4年生の6月ごろ、阪神甲子園球場がアナウンス担当を募集していると阪神大学野球連盟の関係者から聞き、すぐに応募。3回の面接を経て内定を受けた。

◆阪神園芸に助けられ、高校野球初アナウンス

阪神甲子園球場のアナウンス担当は、

現在、入社2年目から約15年までの6人。下積みから段階を踏んで、タイガースと高校野球を担当する。

初めて高校野球を担当したのは、入社2年目の2022年センバツだ。自分の担当試合は第3試合だったが、雨のため第1試合から開始時刻が遅れた。自分の試合ができるかどうかそわそわして待っていたが、阪神園芸の整備のおかげもあり、無事試合を行うことができたという。

◆選手名のアクセントは野球部長に確認することも

高校野球では、バックネット裏の放送室に、アナウンス担当、スコアボードの操作担当、ボール・ストライクのBSO担当が入る。第1試合のアナウンス担当は、午前6時に出動。発声練習をし、スタメン表が届くと事前に届いているメンバー表で氏名に相違がないか照合し、スコアカードに控え選手も含めて名前を記入する。

選手の読み方のアクセントは、阪神甲子園球場での過去の読み方をまとめたデータ集を参考にチェックする。分からない場合はチームが待機している室内練習場に行き、野球部長にじかに確認する。

◆甲子園の放送の伝統

高校野球とタイガースでは、初打席の際に、高校は名前を2回言い、プロは名前に、後に背番号を付けるなどの違いはあるが、アナウンスの仕方は同じという。一方で甲子園の放送の伝統があり、例えば高校で「鈴木君」とアナウンスする時は名前を目

立たせるために「くん」の音を下げる。「6人のアナウンスが6人とも同じように聞こえることがベスト」とされる。佐々さんは「ファインプレーの後はスタンドが盛り上がり上がっているから、状況によっては次のバッターのアナウンスを試合進行の妨げにならない範囲で、少しでも待つように考えている」と話し、ほんの少しの間（ま）にも試行錯誤を繰り返している。

そんな佐々さんについて、阪神甲子園球場・上野正人副球場長（運営担当）は「声が聞きとりやすく、毎回落ち着いてアナウンスしていて、頼りがいのある仕事をしている。甲子園の伝統を守るために、日々、勉強、練習している」と話す。

◆甲子園の歴史をつなぎたい

甲子園球場は昨年、開場100周年を迎え、今年は次の100年に向けての一步を踏み出した。県岐阜商対横浜は球史に残り、アナウンスの声もいづれ歴史の一部になるかも知れない。佐々さんは「毎試合毎試合が必死なんです。でも、変わらずにいることはすごく難しいが、先輩方がつないできた歴史を自分たちもつないでいきたい。伝統を守っていくことがやりがいです」と話す。

◆スポーツにはすごい力

佐々さんは「スポーツはすごく自分の力になっている」と語る。バレーボールを高校で終え、大学では野球部マネージャーという新たな道に打ち込めたのも、

「高校でバレーボールに一生懸命打ち込めた」という達成感があったからだ。「体大に来る人たちはこれまで一生懸命、スポーツに打ち込んできた人ばかり。競技を高校まででやめたとしても大学で続けたとしても、体大生には、スポーツの力という強さがある。自信を持って夢に向かつてほしい」と後輩にエールを送っている。



海で山で野外実習



臨海実習



アドベンチャーキャンプ実習

臨海実習は7月1〜4日、和歌山県白浜町で開催され、今年で通算50年となる歴史に幕を降ろした。キャンプ実習Aも今年が最後で、8月19〜22日に兵庫県美方郡香美町の尼崎市立美方高原自然の家「とちのき村」で行われた。新カリキュラムのアドベンチャーキャンプ実習は8月4〜8日、滋賀県の琵琶湖畔で開催された。海洋スポーツキャンプ実習も今年が最後で、9月8〜11日、徳島県阿南市の

野外活動実習が7月以降、各地で実施された。

野外活動では、非日常的な自然環境の中で集団を作り、課題解決を目指す。そこで得られる学びは日常での課題解決につながる。本学の学生は企業などからコミュニケーション能力、リーダーシップなどの非認知能力の高さを指摘されており、野外活動での学びは大きく貢献している。

スポーツ科学部では、体育学部からの移行に伴うカリキュラム変更で、今年が最後となる実習、新たにスタートする実習が開催された。

◆**アドベンチャーキャンプ実習スタート**
スポーツ科学部2年生17名が参加。初日は開講式と、全員が力を合わせて課題を解決するASE。2日目は15キロの縦走登山。3日目は琵琶湖でウインドサーフィンを体験した。4日目からは自転車での琵琶湖一周に挑み、4日目は90キロを走破しテント泊。最終

◆**最後の臨海実習**
体育学部3、4年生33名が参加。ライフセービングでは昼の実技と夜の座学に臨み、全員がウォーターセーフティの資格を取得。スキューバダイビングも体験し、参加者はスクーバダイバーの認定を受けた。最終日は伝統の遠泳が実施され、全員が45分間を泳ぎ切った。最後は実習主任の川島康弘教授を胴上げし、実習に別れを告げた。

Y M C A 阿南国際海洋センターで開催。新カリキュラムのマリンスポーツキャンプ実習は翌12日から15日まで、同じ会場で実施された。
また、教育学部では、野外活動実習Ⅰ（夏季）が8月25〜27日、大阪府泉南郡岬町の大阪府立青少年海洋センターで実施された。



臨海実習。胴上げされる実習主任の川島康弘教授

日は110キロを走り切った。
◆**マリンスポーツキャンプ実習も初開講**
スポーツ科学部の2年生が参加。前身の海洋スポーツキャンプ実習の内容を継承したうえで、新たに800m沖合の無人島・野々島をジャンボカヌーで一周しテントに宿泊するプログラムが加えられた。参加者は初日にカヌー、キャックを体験し、2日目は1人乗りヨットのダックリンでセーリング。3日目は全員でジャンボカヌーを漕いで野々島を一周し、島でシノーケリングや釣りを通じて自然と触れ合い、夜はテントに宿泊。夕食は釣った魚をさばって作り、焚火を囲んで語り合った。



アドベンチャーキャンプ実習



マリンスポーツキャンプ実習



マリンスポーツキャンプ実習

就活支援キャリアフェスタ

3年生が企業・団体ブース巡る



東京消防庁説明ブースで自身の体験を元に話す本学卒業生

3年生全員を対象にした就職活動支援イベント「キャリアフェスタ」が、7月30、31日に開催された。

学生は、クールビズのリクルートスタイルで、学科ごとに分かれ、担当教員・キャリア支援部の職員らからルールと心構えなどの説明を受けた。参加企業・団体・学校ごとに用意された教室（ブース）を回って、各自が1日4ブース、2日間で8企業・団体などの話を聞いた。

説明後、各ブースで企業・団体の方とフリートークの時間が設けられ、学生は熱心に質問。「公務員を希望していたが、様々な企業のブースで話を聞くことで選択肢が広がった」などの声が聞かれた。



キャリアフェスタで企業や団体のブースで話を聴く3年生

◆参加企業・団体など◆

クボタグループ、大和リース、日本アクセス、東洋紡、不二製油、西日本旅客鉄道（JR西日本）、アルペン、ミズノ、吉本興業、ニプロ、野村證券、近鉄大阪マリriott都ホテル、ユニ・チャーム、関西テレビ放送、ソフトバンク、大阪府庁、東京消防庁、警視庁、法務教官（和泉学園）、海外留学、JICA（青年海外協力隊）、大学院（大阪体育大学大学院）、教員（大阪府立門真高等学校、神戸市立鷹取中学校、吹田市立佐井寺小学校、大阪府立八尾支援学校）



和歌山県と連携協定 スポーツ通じた振興・交流目指す

大阪体育大学と和歌山県が9月10日、スポーツを通じて相互の振興を図り、人的・知的・物的資源の交流・活用を促進させることを目的に連携協定を締結した。

都道府県とスポーツ振興に関する連携協定を結ぶのは、2022年の高知県以来で2例目。今後、中学校の部活動地域展開に係る指導員の紹

介、スポーツイベントへのボランティアスタッフの運営協力などが想定されている。

調印式は和歌山県庁で行われ、神崎浩学長と宮崎泉知事が署名、調印した後、協定書を交換。神崎学長は「連携事業に教職員だけでなく学生も交えることで、学生の成長につなげていきたい」と語った。



9月度 修了式・卒業式

令和7年度9月大学院修了式・大学卒業式が9月12日行われた。大学院スポーツ科学研究科博士後期課程1名、体育学部18名、教育学部1名の氏名が読み上げられ、一人ひとりに神崎浩学長から学位記・卒業証書が授与された。

また、スポーツ優秀賞が中村莉菜さん（硬式野球部女子、体育学部、クラーク記念国際高校）らに贈られ、修了生・卒業生を代表して、石井友樹さん（体育学部、岡山・西大寺高校）が記念品を受け取った。

教育後援会役員会を開催 父母らの代表が事業計画・予算審議

令和7年度の大阪体育大学教育後援会役員会が6月21日、大会議室で開かれ、学生の父母ら代表22人と神崎浩学長、浪商学園・野田賢治理事長や大学の教職員が出席した。

役員会では、冒頭に菅谷暢之会長が「大学は今年開学60周年を迎えました。大学はさらなる充実、発展を目指して改革と学生サービスの向上に尽力されているが、

本会もよりいっそうの支援をしていくことが必要だ」とあいさつした。神崎学長、野田理事長のあいさつに続いて議事に移り、令和6年度の事業、決算が承認された。

その後、令和7年度役員員の推薦に移り、西岡潤哉副会長が新会長に推薦され、菅谷会長、宇野修副会長が退任のあいさつを述べた。

続いて令和7年度の事業計画案、予算案が審議され、課外活動や学生生活支援、傷害治療援助、就職振興、入学・卒業行事への援助などを盛り込んだ事業計画、予算案が承認された。

◇新役員候補者のうち会長、副会長、会計監査は次の皆様◇

- ▽会長 西岡潤哉
- ▽副会長 花見明子
- ▽会計監査 伊藤絵里香、仲村秋乃

(敬称略)

大阪体育大学教育後援会令和7年度収入支出予算書 収入の部 (単位:円)

費目	予算額
会費収入	34,308,000
前年度繰越金	14,909,006
利息	15,000
学生徴収分	300,000
特別会計より繰入	
計	49,532,006

大阪体育大学教育後援会令和7年度収入支出予算書 支出の部 (単位:円)

費目	予算額
学生援助費	
①課外活動	500,000
②大学祭	500,000
③学生生活支援	8,500,000
④傷害治療援助	7,000,000
⑤就職振興	4,500,000
⑥入学行事	1,500,000
⑦卒業行事	2,500,000
⑧慶弔記念費	600,000
⑨災害見舞金	100,000
教育援助費	
クラス活動	0
①大学院研究活動	1,000,000
②文化厚生	5,500,000
課外活動特別援助	5,000,000
運営費	
①会議費	200,000
②会報費	3,700,000
③事務費	1,400,000
予備費	5,032,006
特別経常費	2,000,000
特別会計繰出金	0
次年度繰越金	0
計	49,532,006

特別会計(特別対策基金)収入支出予算書 (単位:円)

項目	収入	支出
前年度からの繰入金	60,396,591	0
定期利息	900	0
今年度繰入金	0	0
今年度繰出金	0	0
今年度繰越金	0	60,397,491
計	60,397,491	60,397,491

大阪体育大学教育後援会令和6年度収入支出決算書 収入の部 (単位:円)

費目	決算額
会費収入	33,000,000
前年度繰越金	20,275,547
利息	16,844
学生徴収分	317,163
計	53,609,554

大阪体育大学教育後援会令和6年度収入支出決算書 支出の部 (単位:円)

費目	決算額
1) 学生援助費	
①課外活動	500,000
②大学祭	500,000
③学生生活支援	7,457,288
④傷害治療援助	7,037,516
⑤就職振興	3,951,641
⑥卒業行事	2,986,930
⑦災害見舞金	0
2) 教育援助費	
①クラス活動	847,490
②大学院研究活動	380,000
③文化厚生	5,500,000
3) 課外活動特別援助	4,500,000
4) 事業費	
①会報費	3,189,184
②慶弔記念費	331,000
5) 運営費	
①会議費	212,243
②事務費	1,307,256
予備費	0
特別会計繰出金	0
次年度繰越金	14,909,006
計	53,609,554

特別会計(特別対策基金)収入支出決算書 (単位:円)

項目	収入	支出
前年度繰越金	60,395,568	0
今年度繰入金	0	0
今年度繰出金	0	0
定期利息	1,023	0
次年度繰越金	0	60,396,591
計	60,396,591	60,396,591



◆「体大のオープンキャンパスの感想は？」高校生に徹底して取材しました。「大学生が

みんなフレンドリーだった」「すれ違った時にめっちゃあいさつしてくれました」。学生のフレンドリーさを挙げる声が目立ちました。特に女子にその傾向が強感じられました。

◆オーキャンの運営を担う学生チーム「ボーキヤンズ」のリーダーは「ミーティングで親しく接することを確認していたので、うれしい」と笑顔。学生チームだけでなく、練習していたクラブ生からの何気ないひとことや笑顔も、高校生に強い印象を与えたようでした。

◆「本学の長所とは？」6年前に新聞社から転職して以降、この答えを探し続けています。見つけた答えは大学HPに「10の強み」として掲載していますが、最大の長所は「学生の力」ではないでしょうか。親しみやすさ、元気さ、礼儀正しさ、リーダーシップ。「非認知能力」と呼ばれる資質は企業も高く評価しています。胸を張って誇れる学生の活躍をもっと社会に伝えたくて、本学ではヤフー・スポーツナビに記事・動画を連日掲載しています。全国の大学で一番充実した内容だと自負しています。ぜひご覧ください。

【大坪康巳】



ネギをたずねてスーパーマーケット



コラム **ボーシヤ**

名誉教授 和田隆夫

「白ネギ、買ってきて」

妻に頼まれた。

(ついでにアイスも買うか)と機嫌よく家を出た。

近所のスーパーマーケットは、退職後よく行くようになった。ただなぜか慣れない。それでも買い物には不都合はない。自分の心まかせにいつも買い物をしているからかもしれない。

(白ネギ、白ネギ)

たまに細ネギを買っていたので、その近くに白ネギはあるのだろうかと思っていた。

(えっ、ない!)

もう一度見渡すが、やはりない。頭は真っ白になり、

(いや、そんなはずない、どこかにあるはずだ。でもどこに。白ネギは季節物なの?)

いろいろな想念が頭の中を駆けめぐった。

再三見直すが、やはりない。

上段には、えごま・みつば・大葉、中段には細ネギ、下段には青ネギが置かれている。その左右には、なす・にがうりや青ネギのカットされたパックがある。

しばし立ち尽くしたが、諦めずに野菜売場をさまよい出した。すると別の棚にネギらしきものを見つけた。

(白ネギだ!)

ようやく見つけた。白ネギは白菜とまいたけ・エリンギに挟まれていた。上段には、鍋スープ各種、北海道カレースープ、チャウダー用スープが並んでいた。

ちなみにネギ属のニラは、小松菜、豆苗、キャベツに囲まれている。(なんでなの。すごくわかりにくい。ネギ属ならみんな一緒にいるべきだ)

リンネの植物分類を出すまでもなく、ものを陳列するときには一定の法則で分類すべきだと思っていた。

ぼくは、30歳の頃、ドイツ不当利得法の研究をしていた。雑多な形で生じる不当な利得を類型で分類して、類型ごとに法律上の要件と効力を明らかにしようとしていた。その研究の影響なのか、無意識のうちに日常生活でも事物を分類しがちである。ぼくの考えだと、ネギ、ニラ、タマネギ、ニンニクは、ネギ属の一員で、ぜひ一族として仲良く集まってもらいたいと思っている。

そこで商品棚を整理していた店員に、このネギの配置はどんな基準ですかと尋ねた。店員は、嫌がりもせず丁寧に教えてくれた。

店員の説明はこうである。要するにリンネの植物分類ではなく、「料理での使い方」であるようだ。つまり鍋やスープに使うものを集めてある場所に、白ネギは陳列されるということらしい。これは、メインターゲットが主婦層や料理慣れた人であり、その人たちにとっては、用途別に陳列している方が直感的に買いやすいということにあるようだ。つまり季節に応じた代表的な料理を設定して、その食材を集める。その周辺にたとえばカットネギなどを置いて、「ついで買い」も狙っている。こうしないと「ついで買い」の商品は売れないようだ。

そう言われると、ここ2、3年、ぼくは新生姜が出ると、甘酢漬(ガリ)を作っているが、これも新生姜の横に甘酢が置いてあるからである。

(これか!)

まさに料理する常連客には便利な、当然の戦略だった。

それで思い出したことがある。それは、「はるさめ」である。あるとき「はるさめ」を買いに来たときがあり、やはり迷った。今から考えると鍋料理に使うためだったので、白菜の近くに「ついで買い」として置いてあったかもしれない。

皆さんはどこにいますか?

乾物コーナー、中華コーナー、麺類コーナー?あるいは白菜の横?

そのときもまずぼくは「はるさめの分類」を考えてしまい、形状から、これは当然乾物コーナーだと思ったが、このスーパーではそのときは麺類コーナーに置いてあった。どうやらはるさめは、用途に応じた、つまり季節に応じて移動する流浪の食材のようだった。

このときもけっきょく店員に尋ねたのだが、店員にも迷いがあ

たように思う。彼は少し考えてから案内してくれた。

ちなみに似たような食材の「マロニーちゃん」は乾物コーナーに常駐している。ぼくの間でも「マロニーちゃん」は乾物コーナーにあるという「はるさめ」にはない確信がある。先ほどスーパーに見に行ったら、今日は乾物コーナーの「マロニーちゃん」の横に置かれていた。

いずれにせよ、スーパーマーケットの戦略では、ぼくのような定年後にようやく料理を始めるような料理初心者や若い人、スーパーマーケットに行く機会の少ない人にとって、目当ての食材を探すことはとても難しい。

「はるさめ迷子」になるのは、まさにスーパーの設計がヘビーユーザー基準だからだと思う。常連は「鍋コーナーの横にあるな」と気付けるけど、初心者にとっては本当に探しにくい。

ドイツで在外研究をした年数が2年6ヶ月くらいあり、そのうちの1年6ヶ月くらいは一人で生活をした。食事は外食と自炊であり、頻繁にスーパーマーケットに行ったが、商品を探すのに迷ったという記憶がない。ただ商品(野菜)の並べ方はよく覚えていない。野菜の種類が少ないということはあったが、探し迷ったということはない。もしかするとドイツ人の気質から考えて、「料理での使い方」ではなく、「植物の分類」だったのではないだろうかと思像している。

いずれにせよ、ぼくは、こうした「ネギ迷子」や「はるさめ迷子」を「購買弱者」と命名したい。似たような言葉に「買い物弱者」がある。これは、「買い物難民」とも呼ばれるようになったが、この人たちは、人口減少による店舗の減少、公共交通機関の衰退などにより、移動手段が不足したり、障害により移動手段が限られたりして、日用品、食料品の買い物が困難な人のことである。これに対して、ぼくのいう「購買弱者」は、実際にスーパーマーケットやショッピングセンターに来て、商品の展示がヘビーユーザー対応であるため、商品の置き場所が分からなかったりして、スーパーマーケットで購買することに困難を感じる人のことである。

購買弱者の対策としては、スマートホンの利用がある。たとえば商品マップなどによる商品の置き場所を検索できるアプリを開発・活用することはどうだろうか。海外ではウォルマートなどの一部スーパーマーケットや国内でもイオンやイトーヨーカドーでは始まっているという話を聞く。このことはスーパーマーケットに限らない。商品点数の多い販売所には同じ問題がある。こうした方法で購買弱者の対応が進めば、まず迷わず容易に目的の商品に行きつけるので、購買弱者の負担を軽減できる。つぎに店員への質問が減り、接客コストが削減できる。さらに「ついで買い」の機会も増える。

ヘビーユーザーだけではなく購買弱者にもフレンドリーなスーパーマーケットこそ、料理初心者の願いである。





本物を学び、極める

大阪体育大学

【大学院】

- スポーツ科学研究科
博士（前期・後期）課程

【スポーツ科学部】（1年～2年）

- スポーツ科学科

【体育学部】（3～4年）

- スポーツ教育学科
- 健康・スポーツマネジメント学科

【教育学部】

- 教育学科

大学事務局

庶務部、教学部、入試部、広報室
キャリア支援部、大学院事務室

大学附置施設等

図書館、スポーツ局、社会貢献センター
情報処理センター
スポーツ科学センター
国際交流センター、学習支援室

<https://www.ouhs.jp/>

OUHS ジャーナル 2025年(令和7年)10月10日(金)

発行所：大阪体育大学 広報室 発行責任者 大坪康巳 協力：教育後援会・学友会
大阪府泉南郡熊取町朝代台 1-1 電話(072)453-7021 FAX(072)453-8818